堅確ナル軍人精神竝嚴肅ナル軍紀タリ故ニ軍隊教育ハ此要素ヲ涵養スルヲ以テ主眼トス

夫レ生ヲ棄テ義ヲ取リ恥ヲ知リ名ヲ惜ミ責任ヲ重ンシ艱苦ニ堪ヘ奮ツテ國難ニ赴キ悦ンテ任務ニ斃ルルハ我カ國民ノ古來繼承尊重セル大和魂ニシテ特ニ軍人ニ必須ノ資性ナリ故ニ軍隊教育ニ於テハ此國民性ヲ砥礪擴充シ以テ事實上ニ其成果ヲ發揮セシメサルヘカラス

二、將校ハ軍隊ノ楨幹ニシテ軍人精神及軍紀ノ本源ナリ故ニ居常之カ修養ニ勉メ其一言一行ハ部下ヲシテ仰イテ以テ之ニ則ラシムルコト恰モ形影相伴ヒ響音相應スルカ如クナラサルヘカラス

將校ハ又軍隊教育ノ中樞ニ立ツモノナリ故ニ平素該博ナル識見ヲ養ヒ卓拔ナル技能ヲ練リ以テ教育上最善ノ效果ヲ收メサルヘカラス

凡ソ將校タルモノハ常ニ士風ヲ振起シ志氣ヲ旺盛ニシ躬行ヲ愼ミ率先ニ勉メ識見卓絶ニシテ教導肯綮ニ中ル如クナルヲ要ス此ノ如クシテ始メテ能ク部下ノ渇仰ト信賴トヲ獲ヘク以テ眞ノ服從ヲ誘起シ軍紀ヲ振興シ教育ノ成果ヲ擧クルコトヲ得ルモノトス

三、凡ソ部下ヲシテ一令ノ下欣然トシテ死地ニ就カシムルモノハ卽チ訓練ノ精華ナリ之カ爲軍隊ノ教育ニ方リテハ幹部ハ兵ヲシテ的確ニ各自ノ責務ヲ自覺シ忠君愛國ノ大義ニ基キ熱誠以テ事ニ

從ハシムル如ク指導セサルヘカラス加之幹部ハ常ニ躬ラ上長ノ正道ヲ踐ミ兵ハ衷心服從ノ本義ヲ守リ上下一致肝膽相照ラシ以テ軍務ノ練磨ニ勉ムルヲ要ス苟モ軍隊ノ訓練ニ方リ上ミ思慮ノ穩健ヲ缺キ下モ思想ノ正順ヲ失フカ如キコトアランカ軍隊ノ團結爲ニ弛解ヲ來スニ至ルヘシ嚴ニ戒愼セサルヘカラス

四、周到適切ニ企畫シ整正嚴格ニ實施スル教練ハ實ニ軍人精神ヲ振作シ軍紀ヲ緊張スルノ要道ナリ而シテ又諸般ノ演習、內外ノ勤務竝行住坐臥ノ間諄々薰化シテ儕ラサルハ之カ養成ニ缺クヘカラサルモノトス此ノ如クシテ彼此相應シ表裏兼該シ始メテ能ク軍人精神竝軍紀ノ涵養ヲ期スヘシ

五、武技ノ習熟ハ能ク自信力ヲ增シ意志ヲ鞏固ニシ氣力ヲシテ自ラ旺盛ナラシム

戰鬪方ニ酣ニシテ勝敗ノ數今ヤ決セントスルノ際意中特ム所アリ心手期セスシテ活動スルモノ唯能ク功ヲ奏スヘク堅忍持久毅然トシテ氣節ヲ持シ難境ニ處シテ愈〻奮激邁進スルモノ職トシテ鞏固ナル意志、旺盛ナル氣力ニ由ラスンハアラス各級ノ軍人此心ヲ以テ武技ノ習熟ニ勉メサルヘカラス

六、體力ノ强弱ハ志氣ノ振否ニ至大ノ關係ヲ有ス體力强健ナレハ志氣亦旺盛トナリ風土ノ變易ニ克チ困苦缺乏ニ堪ヘ各種ノ任務ヲ完全ニ遂行スルヲ得ヘシ故ニ軍人ハ體軀ヲ鍛ヒ筋骨ヲ練リ持久

力ヲ養ヒ以テ至難ナル任務ヲ盡スニ毫モ遺憾ナキノ資質ヲ具備セサルヘカラス

七、軍人ハ國民ノ精華ニシテ其首要部ヲ占ム從ヒテ之カ教育ノ適否ハ直ニ鄉黨閭里ノ風尙ヲ左右シ以テ國民ノ精神ニ偉大ノ影響ヲ及スモノナリ蓋シ軍隊ニ於テ修得セル無形上ノ資質ハ以テ社會ノ風潮ヲ向上スヘク國民ノ儀表ト爲リ擧實剛健ノ氣風ヲ馴致シテ國家ノ隆興ヲ增進シ得ヘケレハナリ是ヲ以テ苟モ軍隊教育ノ任ニ當ル者ハ固ヨリ戰鬪ヲ以テ本旨ト爲スヘシト雖其良兵ヲ養フハ卽チ良民ヲ造ル所以ナルヲ思ヒ國民ノ模範典型ヲ陶冶スルノ覺悟ナカルヘカラス

第二編　海軍一般

第一章　海軍ノ任務及其機關

第十八　海軍ノ任務

海軍ノ主要ナル任務ハ平戰兩時ヲ通シテ我海上權ヲ確保スルニ在リ卽チ戰時ニ於テハ敵ノ艦隊ヲ擊滅シテ國土防衞ノ萬全ヲ期スルト共ニ我海上交通ノ安全自由ヲ獲得シ以テ國民生活ニ必要ナル物資ノ輸送ヲ確實ナラシメ更ニ進ンテ敵ノ海上連絡ヲ遮斷シ以テ其海外貿易ヲ蹂躙シ或ハ敵國ノ領土ヲ占領シテ脅威ヲ與フル等ノ任務ニ服シ平時ニ於テハ海上警備ノ任ニ當リ以テ船舶航行ノ安全ヲ得セシメ或ハ我海外貿易竝在留邦人ヲ保護シテ我在外權益ノ擁護ニ任ス又必要ニ際シテハ國家ノ威容ヲ海外ニ示シ或ハ國交ノ親善ヲ期スル等ノ目的ヲ以テ外國派遣ノ任務ニ服スルコトアリ

第十九　海軍ノ機關

1、中央機關　軍令部及海軍省トス

2、其他ノ機關　鎭守府要港部

第二十　敎育機關

1、海軍大臣ノ隷下ニ在ル學校（海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍經理學校、海軍軍醫學校）

2、鎭守府司令長官ノ隷下ニ在ル學校（海軍砲術學校、海軍水雷學校、海軍

潜水學校　海軍通信學校、海軍工機學校、運用術練習艦、海軍練習航空隊、海兵團練習部、海軍病院練習部）

第二章　艦船ノ種類及海軍生活

第二十一　艦船ノ種類

一、艦艇
- 軍艦
  - 戰艦
  - 巡洋艦
  - 航空母艦
  - 潜水母艦
  - 敷設艦
  - 砲艦
  - 練習戰艦
  - 練習巡洋艦
- 驅逐艦
- 潜水艦
- 水雷艇
- 掃海艇

二、特務艦艇
- 特務艦
  - 工作艦
  - 運送艦
  - 碎氷艦
  - 測量艦
  - 標的艦
  - 練習特務艦
- 特務艇
  - 敷設艇
  - 掃海特務艇
  - 潜水艦母艇

第二十二　海軍生活

1、海兵團生活竝海兵團教育

海軍兵ハ先ツ海兵團ニ入團セシメ四月乃至五月ノ教育ヲ實施シタル後艦船ニ分乘セシム

2　艦内生活竝艦上教育

約二ケ月間特別教育ヲ受ケタル後舊兵ニ互シ働キ教育セラル艦内ニテハ日課

週課ニ基キ各種ノ教練ヲ實施ス

3、艦除生活及其訓練

第一期訓練、第二期訓練ヲヘテ大（小）演習ニ入リ其ノ訓練ヲ終ル

第三章　海軍區及軍港、要港

第二十三　海軍區

陸軍ニ於ケル師管區ト略、同意味ニ於テ海軍ハ帝國ノ海軍及海面ヲ三個ノ海軍區ニ分ツ

1、第一海軍區　青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、東京、神奈川、靜岡、愛知、三重ノ各府縣及北海道、樺太ノ海岸海面

2、第二海軍區　和歌山、大阪、兵庫、岡山、廣島、山口、島根、鳥取、京都、福井、石川、富山、新潟、山形、秋田、德島、高知、愛媛、香川、大分、宮崎各府縣ノ海岸海面竝福岡縣遠賀宗像郡界ヨリ以東ノ海岸海面

3、第三海軍區　第二海軍區ニ屬スルモノヲ除キタル福岡縣ノ海岸海面竝佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、沖繩各縣及臺灣及朝鮮ノ海岸及海面

關東州ノ海岸、海面ハ之ヲ關東州海軍區、南洋群島委任統治區域ノ海岸、海面ハ之ヲ南洋海軍區ト稱ス

第二十四　徵募區

前述ノ海軍區トハ別ニ召集竝海軍志願兵徵募等ノ事務施行ノ爲全國ヲ三個ノ海軍志願兵徵募區ニ分ツ其區分左ノ如シ

海軍志願兵徴募區	所管鎮守府	縣
第一	横須賀鎮守府	北海道　青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉、長野、樺太、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、山梨、靜岡、秋田、山形、新潟
第二	吳鎮守府	愛知、三重、和歌山、滋賀、奈良、京都、大阪、兵庫、岡山、廣島、山口、鳥取、島根、富山、石川、福井、岐阜
第三	佐世保鎮守府	德島、香川、愛媛、高知、大分、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩

第二十五　軍港　要港

第一海軍區　横須賀軍港、大湊要港
第二海軍區　吳軍港、舞鶴要港
第三海軍區　佐世保軍港、鎮海要港、馬公要港
關東州海軍區ハ佐世保鎮守府ノ所管ニシテ旅順要港ヨリ、南洋海軍區ハ横須賀鎮守府ノ所管トス

第四章　海軍軍人ノ官等及服制

第二十六　海軍軍人ノ科別及識別

海軍軍人ハ各其所掌ニ從ヒ左ノ科別ニ區分セラレ准士官以上ノ帽及襟章（軍裝）及袖章（通常禮裝）ニハ其識別線ヲ附ス

科別					
士官	兵科	機關科	軍醫科	主計科	造船科
			藥劑科		造機科
					造兵科
					水路科
					航空科
特務士官 准士官	兵科	機關科	看護科	主計科	軍樂科
識別	ナシ	紫	赤	白	萵
		蝦茶	青	青	藍

第二十七　階級（附表第二參照）

海軍軍人トハ士官、特務士官、准士官、下士官及兵ノ總稱ニシテ下士官以上ヲ海軍武官ト謂ヒ其官等級區分（附表參照）

第二十八　服制

1、服裝ノ種別　海軍准士官以上ノ武官ノ服裝ハ正裝、禮裝、通常禮裝及軍裝ノ四種ニ、候補生、生徒ノ服裝ハ通常禮裝及軍裝ノ二種ニ、下士官ノ服裝ハ禮裝及軍裝ノ二種ニ大別ス

2、軍裝ノ識別

イ、准士官以上ノ軍裝ノ識別　第一種軍裝（冬服）ハ襟章及袖章、第二種軍裝（夏服）ハ肩章ニ依ル

ロ、下士官及兵　制服ノ科別及官職ノ區別ハ專ラ臂章(右腕ニ附ス)ニ依ル
但シ四等兵ニハ臂章ナシ
3、其他特技章及善行章アリ

第三編　各兵種ノ職能及戰闘一般ノ要領

第一章　各兵種ノ職能

第二十九　歩兵

1、本領　歩兵ハ軍ノ主兵ニシテ常ニ戰場ニ於テ主要ナル任務ヲ負擔シ、地形及時期ノ如何ヲ問ハス戰闘ヲ實行シ最終ノ勝ヲ決スルニアリ而シテ敵ニ近接後ノ戰闘及夜戰ニ於テ其特色ハ愈〻顯著ナリ

2、戰闘手段　火戰及白兵戰ニシテ其所持スル小銃、機關銃、歩兵砲等ヲ以テ先ツ敵ヲ制壓シ隊形ト地形トヲ適切ニ利用シテ一進一止敵ニ肉迫シ銃劍突撃ヲ以テ之ヲ破摧スルニ在リ

第三十　騎兵

1、本領　快速ナル機動性ト獨立セル戰闘能力トヲ以テ其任務ヲ達成スルニ在リ

2、主ナル任務　騎兵ハ會戰ニ先ンシテ情報ノ蒐集、資源ノ獲得ヲ行ヒ警戒及掩護ニ任シ戰闘間好機ニ乘シテ敵ノ側背ヲ脅威シ或ハ直接戰闘ニ加入シ殊ニ追撃ニ方リテハ其快速ナル馬力ヲ利用シ敵ヲ攻撃スルニ極メテ便利ナリトス

3、戰闘手段　騎兵ハ其戰闘目的ヲ達スルタメ乘馬戰又ハ徒歩戰ヲ行ヒ或ハ之ヲ併用ス

第三十一　砲兵

一、本領　砲兵ノ本領ハ威力強大ニシテ機動迅速ナル火力ニ依リ戰鬪ノ骨幹ヲ成形シテ敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ鼓舞作興シ以テ全軍戰捷ノ途ヲ拓キ或ハ敵艦ヲ擊滅シテ其企圖ヲ破摧スルニ在リ

二、戰鬪手段　砲兵ハ他兵種特ニ歩兵ト協同シ射擊ヲ以テ戰鬪手段トシ戰局ノ進捗ヲ容易ナラシムルモノトス

三、砲兵ノ種類及特性

砲兵ハ野戰砲兵、攻城重砲兵、要塞重砲兵及高射砲兵ニ區分セラレ各特性ヲ有ス

1、野戰砲兵ハ野砲兵、山砲兵、騎砲兵及野戰重砲兵ニ區分セラル

イ、野砲ノ特性ハ運動ノ輕捷、射擊速度ノ大、彈道ノ低伸、射距離ノ長大、方向移動ノ容易ナルニアリ故ニ暴露セルカ或ハ掩護不十分ナル各種活目標ヲ殺傷シ或ハ障碍物ヲ破壞スルニ適ス

ロ、山砲ノ特性ハ野砲ニ比シ射距離短小ナルモ彈道比較的彎曲シ各種地形ニ於ケル行動容易ニシテ而モ地形ノ利用便ナルニ在リ而シテ山砲ハ第一線歩兵ニ近ク行動セシメ或ハ特種ノ地形ニ於テ使用スルニ適ス

ハ、騎砲ノ特性ハ野砲ニ比シ一層運動ノ輕快ナルニアリ故ニ騎兵ニ隨隨シテ其獨立性能ヲ大ナラシムルモノトス

ニ、野戰重砲　擲射及平射ノ二種ニ區分ス

擲射砲ハ野砲ニ比シ運動性及射擊速度小ナルモ彈道彎曲シ彈丸ノ威力强大ナル目標又ハ稍〻堅固ナル術工物ヲ射擊スルニ適ス

平射砲ハ彈道ノ低伸ニヨル射距離ノ長大、發射速度大ナルヲ以テ主トシテ遠距離ノ對砲兵戰其他ノ遠戰ヲ行フニ適ス

ホ、攻城重砲兵ハ其種類ニ依リ著シク其特性ヲ異ニスルモ遠大ナル射程ト偉大ナル破壞力トヲ利用シ最モ堅固ナル物體、掩護確實ナル目標ノ破壞竝野戰砲兵ノ射程外ニアル目標ノ射擊ニ適ス

ヘ、要塞重砲兵ハ要塞防禦ノ主體トナリ通常海軍及航空部隊ト協同シテ敵ノ艦船竝航空機ヲ擊破シ或ハ其行動ヲ防遏シ敵ノ上陸攻擊ニ對シ他兵種特ニ歩兵ト協力シテ敵ノ企圖ヲ破摧スルモノトス

ト、高射砲兵ハ敵ノ航空機ヲ射擊シテ其企圖ヲ挫折シ以テ地上ニ於ケル友軍及緊要ナル地點ヲ掩護シ且友軍航空隊ノ行動ヲ援助スルモノトス

第三十二　工兵

一、工兵ノ本領ハ作戰經過ノ全局ニ亙リ其特有ノ技術的能力ヲ發揮シテ作業ヲ實施シ以テ全軍戰捷ノ途ヲ拓クニアリ

二、工兵ノ種類及特性

工兵ハ一般工兵、鐵道兵、電信兵ニ區分シ各、特性ヲ有ス

1、一般工兵　終始戰鬪ノ全局ニ稽ヘ機宜ニ適スル如ク行動ヲ律シ常ニ重要ナル作業ヲ擔當シ特ニ敵前渡河ニ方リテハ迅速ニ友軍ヲ渡河セシメ近接至難ナル敵陣地ニ對シテハ地上若ハ地中ヨリ之ニ近迫シ敵ノ側防機能ヲ破摧シテ歩兵ノ爲ニ肉薄突撃ノ自由ヲ與フル等戰鬪ノ進捗ヲ容易ナラシムルモノトス

2、鐵道兵　戰地ニ於ケル鐵道ノ建築修繕、改築及運轉ヲ行ヒ軍隊ノ活動力ヲ保持增進シ又必要ニ應シ鐵道ノ破壞ニ任ス

3、電信兵　有線無線ノ二種アリ何レモ電信、電話ノ建設、修繕、破壞及通信勤務ニ從事ス

第三十三　航空兵

一、本領　空中行動ヲ以テ敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ作興シ以テ地上軍隊ノ戰捷ヲ誘發スルニアリ

二、航空兵ノ種類及特性

航空兵ハ飛行兵、氣球兵ニ區分シ飛行隊ハ之ヲ偵察飛行隊、戰鬪飛行隊及爆撃飛行隊ノ三種トス

1、偵察飛行隊ハ捜索ヲ以テ主任務トス尙指揮官ノ戰鬪指導竝砲兵ノ協力ニ用ヒ時トシテ爆撃ヲ行フコトアリ

2、戰鬪飛行隊ハ主トシテ制空及掩護ニ任シ時トシテ簡易ナル捜索及爆撃ヲ行フコトアリ

3、爆撃飛行隊ハ主トシテ地上ノ要點及部隊等ヲ爆撃スルモノニシテ通常輕爆撃機ハ戰場附近ニアル敵ノ地上軍隊及軍事施設ノ爆撃ニ又重爆撃機ハ敵ノ重要ナル後方施設ノ爆撃ニ任ス時トシテ遠距離ノ捜索ニ任スルコトアリ

4、氣球隊ハ捜索、監視、砲兵射撃ノ觀測等ニ任ス

第三十四　輜重兵

一、本領　戰役ノ全期ニ亙リ間斷ナク且迅速確實ニ軍需品ノ輸送及補給ヲナシ絕エス軍ノ戰鬪力ヲ維持シ其活動性ヲ保有セシムルモノトス

二、輜重兵ノ種類及特性

輜重兵ヲ以テ編成スル部隊ヲ輜重及行李ニ區分シ駄馬車輛若ハ自動車ヲ有スル

行李ハ隊屬ニシテ通常小行李及大行李ニ別チ小行李ハ戰鬪間必要ノ物品ヲ大行李ハ主トシテ宿營間必要ノ物品ヲ積載ス輜重ハ師團其他ノ部隊ノ爲軍需品ノ補給ニ任スルモノトス

第二章　戰鬪一般ノ要領

一　戰鬪一般ノ概念

第三十五　戰鬪一般ノ目的及戰捷ノ要決

戰鬪一般ノ目的ハ敵ヲ壓倒殲滅シテ迅速ニ戰捷ヲ獲得スルニアリ而シテ戰捷ノ要ハ有形無形上ノ各種戰鬪要素ヲ綜合シテ敵ニ優ル威力ヲ要點ニ集中發揮セシムル

ニ在リ

第三十六　勝敗ノ素因

戰鬪ノ勝敗ハ固ヨリ單純ナル原因ニ基クモノニアラス而モ幾多ノ素因相錯綜シ容易ニ之ヲ窺知シ難キモノアリト雖之ヲ實ニ徹シ主要ナル素因ト認ムヘキモノヲ擧クレハ左ノ如シ

1、指揮ノ巧拙　軍隊ヲシテ其功ヲ全ウセシムルニハ指揮ノ卓越ニ待タサルヘカラス縱ヒ全般ノ威力ニ於テ劣ルモ主要ナル方面ニ於テ優越ヲ占メ或ハ敵ノ備ヘナキニ乘シ或ハ天候、地形、時刻等ヲ利用シテ敵ニ優ルノ態勢ヲ保持スル等其運用ノ妙ヲ發揮セハ能ク戰捷ヲ期シ得ヘク從ツテ指揮官ノ指揮運用ノ巧拙ハ直ニ戰鬪ノ勝敗ヲ左右スルモノトス

2、軍隊ノ精粗　訓練精到ニシテ必勝ノ信念堅ク軍紀至嚴ニシテ攻擊精神充溢セル軍隊ハ能ク物質的威力ヲ凌駕シテ戰捷ヲ完ウシ得ルモノニシテ素質劣等ナル軍隊ハ啻ニ自己ノ威力ヲ減キノミナラス累ヲ他ニ及ホシ遂ニ戰敗ニ終ルヘキハ古來ノ戰史ニ徵シテ明カナリ

3、兵數ノ多寡　戰鬪資材ノ整否、兵數ノ多寡、戰鬪資材ノ整否モ亦勝敗ノ有力ナル素因タリ故ニ苟モ敵ヲ破ラントセハ爲シ得ル限リ是等ヲ集中整備スルコト必要ナリ

4、之ヲ要スルニ戰鬪ニ於ケル勝利ノ要素ハ實ニ偉大ナル精神力ヲ第一トス古來名將勇卒ノ劣勢ヲ以テ兵數遙カニ優レル敵ヲ擊破シ赫々タル戰捷ヲ獲得セル戰例枚擧ニ遑アラス今其一、二ノ例ヲ示セハ左ノ如シ

戰鬪地	年月日	戰捷軍及其兵力	戰敗軍及其兵力
桶狹間	永祿三年五月十九日	織田軍　三、〇〇〇	今川軍　二五、〇〇〇
奉天	明治三十八年三月一日 三月十日	日本軍　二五〇、〇〇〇	露軍　三七〇、〇〇〇
カンネー	西紀前二百十六年八月二日	カルタゴ軍（ハンニバル）　五〇、〇〇〇	羅馬軍　八六、〇〇〇
東第一會戰	普千九百十四年八月二十六日—三十日	獨軍　一四三、〇〇〇	露軍　四五二、〇〇〇

第三十七　戰鬪ノ種類

1、決戰、持久戰　直接戰鬪ノ目的ニ依リ決戰ト持久戰ニ分ツ

2、攻擊、防禦　戰鬪ニ方リ攻防何レニ出ツヘキヤハ主トシテ任務ニ基キ決スヘキモノナリト雖攻擊ハ敵ノ戰鬪力ヲ破摧シ之ヲ壓倒殲滅スル爲唯一ノ手段ナルヲ以テ狀況眞ニ已ムヲ得サル場合ノ外常ニ攻擊ヲ決行スヘキモノトス

第三十八　戰鬪實行手段

戰鬪實行ノ主ナル手段ハ火戰及白兵戰トス

火戰ハ通常戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモ頑強ナル敵ニ對シテハ此手段ノミヲ以テ戰鬪ヲ始終スルヲ得ス常ニ白兵戰ヲ以テ最終ノ決ヲ與フルモノトス

二　攻擊追擊

第三十九　歩兵中隊ノ攻擊要領圖示

（附圖第一參照）

第四十　追擊ノ必要

戰勝ノ效果ヲ完全ナラシムル途ハ一ニ猛烈果敢ナル追擊ヲ實行スルニ在リ然レトモ戰勝後ニ於ケル各部隊ノ狀態ハ多クハ眼前ノ成功ニ滿足シ果敢ナル追擊ヲ躊躇シ遂ニ功ヲ一簣ニ虧クノ弊ニ陷リ易シ故ニ各級指揮官ハ萬難ヲ排シテ追擊ヲ斷行スルヲ要ス

第四十一　追擊ノ要領

追擊ノ要ハ速ニ敵ヲ捕捉シテ之ヲ殲滅スルニ在リ之カ爲戰勝ヲ豫期シ得ルニ至レハ速ニ追擊ヲ準備シ敵ヲ逸セサルヲ要ス

三　防禦

第四十二　歩兵中隊ノ防禦要領圖示

（附圖第二參照）

第四編　兵器及築城

第一章　兵器

第四十三　歩兵用兵器ノ種類

小銃、拳銃、輕機關銃、機關銃、歩兵砲、手榴彈、擲彈筒、戰車

第四十四　火砲ノ種類

1、彈道ノ形狀ニ依ル種別　加農砲、榴彈砲、臼砲

2、口徑ニ依ル種別　大口徑砲、中口徑砲、小口徑砲

3、用途ニ依ル種別　野戰砲（野砲、山砲、野戰重砲）、攻城砲、海岸砲、特殊砲（高射砲、迫擊砲）

第四十五　航空機ノ概念

1、飛行機ノ種類　偵察機、爆擊機（輕爆擊機、重爆擊機）、戰鬪機

2、氣球ノ種類　繫留氣球、自由氣球

3、航空船ノ種類　硬式、軟式、半硬式

第四十六　化學兵器ノ概要

化學兵器ニハ毒瓦斯、發煙劑、燒夷劑アリ

一、毒瓦斯ノ分類　毒瓦斯ハ生理的作用、效力ノ持續性（一時瓦斯、持久瓦斯）竝效力發生ノ遲速（卽效瓦斯、遲效瓦斯）ニ依リ分類ス

二、生理的作用ニ依ル分類

イ、糜爛瓦斯　皮膚ヲ糜爛シ眼、呼吸器ヲ侵シ甚タシキハ致死セシムルモノニシテ「イペリット」「ルイサイド」

等之ニ屬ス

ロ、窒息瓦斯　呼吸器特ニ肺ニ傷害ヲ與ヘ甚タシキハ窒息致死セシムルモノニシテ「ホスゲン」「ヂホスゲン」等之ニ屬ス

ハ、催涙瓦斯　眼ノ粘膜ヲ刺戟シテ催涙シ一時著シク視力障碍ヲ起サシメ比較的小濃度ニ於テモ效果顯著ナルモノニシテ擔化「アセトフエノン」擔化「ピクリン」等之ニ屬ス

ニ、噴嚏瓦斯　鼻及咽喉ノ粘膜ヲ刺戟シ「クシヤミ」セシメ又嘔吐ヲ催サシムルモノニシテ一旦之ヲ吸入セハ防毒面ノ裝著ヲ困難ナラシム「ヂフエニール」擔化砒素「アダムサイト」等之ニ屬ス

ホ、中毒瓦斯　神經系統及血液ニ作用シ甚タシキ時ハ致死セシムルモノニシテ青酸等之ニ屬ス

第二章　築城及軍事交通

第四十七　築城ノ目的及種類

築城トハ軍隊ノ戰鬪力ヲ保持增進シ又ハ敵ノ行動ヲ制肘シ或ハ我兵力ノ轉用ヲ容易ニスル等ノ爲土地ニ施ス工事及各種構築物ノ總稱ニシテ之ヲ野戰築城ト永久築城トニ分ツ

第四十八　野戰築城ノ概念

散兵壕、交通壕、掩壕　障碍物（主トシテ鐵條網及鹿砦ヲ用ヒ其他拒馬、地雷、泥濘、壕、陷穽等アリ）

第四十九　軍事交通ノ概念

一、通信　有線電話、有線電信、無線電信、無線電話、視號通信（旗通信、回光通信、信號彈）音響通信、手眞似信號、布板信號ヲ用フ

二、道路　一般道路、軍用道路（永久道路、急造道路ニ區分ス）ニ分ツ

三、鐵道、船舶、自動車ハ用兵上重要ナル交通機關ナリ

第五編 軍制ノ概要

第一章 建軍ノ本義、皇軍ノ使命及統帥權

第五十 我建軍ノ本義

我カ國軍ハ萬世一系ノ天皇親シク統率シ給フ所ニシテ闔國一致擧民皆兵ノ主義ニ據リテ成立セルモノナリ

帝國憲法第十一條ニ「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」同第十二條ニ「天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム」同第二十條ニ「日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス」ト定メラレタルハ皆我カ建軍ノ本義ヲ闡明シタルモノニ外ナラス

第五十一 皇軍ノ使命

我カ國軍ハ卽チ皇軍ニシテソノ使命ハ皇國ノ尊嚴竝國家國民ノ正當ナル活動ト安全トヲ保障スル自衞戰ニ任スル軍隊ナリ

第五十二 統帥權

一、統帥權 統帥トハ軍ヲ指揮運用スルヲ謂ヒ畏クモ陸海軍ノ首長トシテ天皇親シク之ヲ統率セラルル所謂陸海軍自身ノ權能ニシテ一般ノ國務ト獨立分離スヘキハ我カ帝國憲法、明治十五年陸海軍軍人ニ賜ハリタル勅諭ニ依リ明カナリ

二、統帥權獨立ノ必要

抑、統帥ノ事タル特種專門ノ知識ヲ保有シ實戰的練磨ヲ經テ始メテ會得セラルヘキモノニシテ其處決果斷迅速ナル

ヲ要ス又機密ヲ絶對ニ必要トシ且補備ヲ爾後ニ期スルコト多クハ不可能ナリ從ツテ他ノ國務ノ如ク合議制ノ審議ニヨリ而カモ爾後ノ改變可能且容易ナルモノト同日ニ之ヲ談スヘカラス故ニ軍人以外ノ者ニシテ統帥ノ事ヲ參畫シ又ハ政略上ノ見地ヨリ統帥ニ干渉ヲ試ムルカ如キハ決シテ戰勝ヲ得ル道ニアラサル事ハ之ヲ今昔東西ノ戰史ニ徵シテ明カナリコレ戰時統帥權獨立ノ必要ナル所以トス平時ニ於ケル國防ノ準備施設ハ直ニ戰時統帥ニ大ナル關係ヲ有シ而モ戰時臨機ノ施設ノミヲ以テシテハ到底平時準備ノ缺ヲ補ヒ難キカ故ニ平時ノ國防ノ準備施設ハ實ニ統帥業務ノ過半ヲ占ムルモノニシテ之ニ對スル要求ハ必然一貫セル方針ノ下ニ企畫實行セラルルヲ要シ軍人以外ノ者ヲシテ之ニ參畫セシメ又ハ政略等ノ見地ヨリ之ニ干渉ヲ試ムルカ如キハ斷シテ許スヘキモノニアラス

第二章 兵役制度

一 總則

第五十三 兵役制度ノ區分及我兵役制度ノ特色

國軍ノ兵員ヲ充足スル方法ハ國體、歷史、國民性、國防上ノ要求、財力等ヲ基礎トシテ決定スヘキモノニシテ其制度ヲ大別スレハ强制兵制(必任義務兵制度)ト志願兵制度トニ區分スヘク强制兵制ハ更ニ之

ヲ分チテ徴兵制ト民兵制トシ志願兵制ハ義勇兵制ト備兵制トニ分ツ

我カ兵制ハ明治五年十一月二十八日制定セラレタルモノニシテ實ニ建國以來ノ制度ニシテ過去ノ一大戰役ニ於テ國威ヲ宣揚シ今日東洋ノ平和ヲ維持シッツアル所以ハ固ヨリ皇威ト國民ノ忠誠ニ依ルヘキモ國家制度トシテハ我カ徴兵制ニ負フモノ頗ル大ナリ實ニ徴兵制度ハ我カ軍制ノ骨幹ニシテ又國家ノ命脈ナリ

第五十四　服役ノ區分及年限

兵役法ハ全兵役ノ服務年限ヲ十七年ヨリ四十年迄トシテ之ヲ左ノ如ク區分ス

兵役ノ區分		服役年限	摘要
常備兵役	現役	陸軍　二年 海軍　三年	現役兵トシテ徴集セラレタル者之ニ服ス
	豫備役	五年四月	現役ヲ終リタル者之ニ服ス
後備兵役		十年	常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
補充兵役	第一補充兵役	五年	現役ニ適スル者ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服ス
	第二補充兵役	十二年四月	但海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ハ十一年四月

兵役		
補充兵役	第二補充兵役	但海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ハ十一年四月
		現役ニ適スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徴集セラレサル者及海軍ニ在リテハ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
國民兵役	第一國民兵役	後備兵役ヲ終リタル者及軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵ニシテ補充兵役ヲ終リタル者並短期現役兵ニシテ其現役ヲ終リタル者之ニ服ス
	第二國民兵役	戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ常備兵役、後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニアラサル年齢十七年ヨリ四十年マテノ者之ニ服ス

第五十五　服役ノ特例

一、在營期間ノ短縮

1、青年教練修了者　青年學校教練又ハ之ト同等以上ト認ムル訓練ヲ修了シタルモノニシテ入營後ノ檢定ニ合格シタル者ハ歩兵（戰車兵ヲ除ク）六月以内其他ノ兵種（輜重兵特務兵及衛生部兵ヲ除ク）ハ六十日以内

2、短期間ニ教育ノ兵種（看護兵及磨工兵ハ在營一年六月、補助看護兵ハ概ネ三月、輜重兵特務兵ハ概ネ二月）

3、特別ノ事由アル者（品行方正、學術勤務ノ成績優秀ナル者及定員ニ對シ過剰トナリタル者）

二、服役延期
三、特種ノ轉役及服役免除

二　徵集及召集

第五十六　徵集ノ意義　徵集トハ兵役法ノ定ムル所ニ從ヒ壯丁ヲ簡拔シテ現役兵又ハ補充兵トナスヲ謂フ徵集ハ陸海軍ノ別ナク陸軍大臣及內務大臣之ヲ統轄ス

第五十七　徵兵適齡　戶籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ年齡二十年ニ達スル者（前年十二月一日ヨリ其年十一月三十日迄ノ間）ハ規定アルモノヲ除ク外徵兵檢查ヲ受クルヲ要ス此年齡ヲ徵兵適齡ト稱ス

第五十八　徵兵適齡屆　戶主ハ家族中其年度ノ徵兵適齡者アルトキハ（特ニ規定アル者ヲ除ク）其年ノ一月中ニ凡テ本籍地ノ市區町村長ニ屆出ツヘキ責任アリ

第五十九　徵兵檢查　一、徵兵檢查ノ意義　壯丁ヲ徵集スル爲ノ檢查ヲ云フ

二、徵兵檢查期日　每年四月十六日ヨリ七月三十一日迄ノ間ニ行フヲ本則トス

三、寄留地檢查　一月三十一日マテニ寄留地受檢通常願ヲ提出スルヲ要ス

第六十　召集ノ意義　召集トハ歸休兵、豫備兵、後備兵、補充兵又ハ國民兵トシテ在鄉スル者ヲ兵務ニ就カシムル爲軍隊ニ召致スルコトヲ謂フ

第六十一　召集ノ種類

充員召集、臨時召集、國民兵召集、演習召集、敎育召集、歸休兵召集

第三章　動員及國家總動員

一　動員

第六十二　動員（出師準備）ノ意義　動員（出師準備）トハ「國家ノ全部若ハ一部ヲ平時ノ態勢ヨリ戰時ノ態勢ニ移ス」ヲ謂フ

第六十三　動員（出師準備）業務ノ概要

一、陸軍ノ動員

平時軍隊ノ人馬材料ハ戰時ノ所要數ヲ充足シアラサルノミナラス新ニ各種ノ戰時機關ヲ整備スルニアラサレハ戰鬪力ヲ充實シ得サルモノナリ動員業務內容左ノ如シ

イ、在鄉軍人ノ召集

ロ、馬匹ノ徵發購買

ハ、戰用諸材料ノ整備

二、海軍ノ出師準備

海軍ノ出師準備ハ陸軍ノ動員業務ト概ネ同一ナリ然レトモ該業務ノ主體ヲナスモノハ艦船及徵用船舶裝備及在鄉軍人ノ召集事務ニシテ之ニ依リテ海軍ノ戰爭ニ臨ミ得ル準備ヲ整フ

二　國家總動員

第六十四　國家總動員ノ意義　國家總動員トハ有時ニ際シ國家全體カ平時ノ態勢ヨリ戰時ノ態勢ニ移リ國家ノ利用シ得ル人的物的有形無形一切ノ資源ヲ

舉ケテ之ヲ統制按配シ軍事ノ要求ヲ完全ニ充タスト共ニ國家ノ生存國民ノ生活ヲ確保シ以テ最モ有利ニ戰爭ヲ遂行スル爲ノ萬般ノ事業ヲ云フ

第六十五　國家總動員ノ必要

將來ノ戰爭ハ規模宏大ニ且長期ニ亙ルコトヲ覺悟シ眞ニ國力戰ノ實ヲ呈スルニ至ラン爲之平時ヨリ之カ準備ヲ要ス卽チ豫メ國家總動員ニ關シテ準備計畫シ開戰當初ヨリ一貫セル國家意志ニ依リ國防資源ヲ統制シ以テ彼此施設ノ先後杆格ヲ避ケ力ノ重複分散ヲ警メ最モ迅速且圓滿ニ而モ最モ經濟的ニ最大ノ戰爭力ヲ發揮セサルヘカラス

第六十六　國家總動員ノ要領

一、國民精神ノ緊張鼓舞（精神動員）
二、人員ノ統制按配（國民ノ動員）
三、物件ノ生產、分配消費等ノ調節（產業動員及經濟動員）
四、交通ノ統制（陸運動員、海運動員、空運動員、通信動員）
五、財政竝金融ニ關スル措置（財政金融動員）
六、其他ノ措置（敎化動員、科學動員、救助動員、保健動員等）
七、機關トシテ資源局ヲ內閣ニ設置シ各官廳ト連絡シテ法令ノ制定竝之カ勵行等ニヨリ國家總動員ノ準備ノ完成ニ努力シツツアリ

第四章　軍機保護法及要塞地帶法

第六十七　軍機保護法

平戰兩時ヲ通シ軍事上ノ秘密ヲ保護スル目的ヲ以テ制定セラレタル法律ヲ軍機保護法ト稱シ左ノ各號ノ違犯者ハ重懲役以下ノ刑罰ニ依リ處斷セラル

一、軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知リ之ヲ探知收集シタル者
二、職務ニ因リ軍事上秘密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其秘密タルコトヲ知リ之ヲ他人ニ漏洩交付シ若ハ之ヲ公示シタル者
三、偶然ノ原因ニ因リ軍事上ノ秘密事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其秘密タルコトヲ知リ之ヲ他人ニ傳說交付シ若ハ之ヲ公示シタル者
四　許可ヲ得スシテ軍港、要港、防禦港又ハ堡壘、砲臺、水雷衞所、其他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量、模寫、撮影シ又ハ其狀況ヲ錄取シタル者
五、許可ヲ得ス又ハ詐僞ノ行爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘、砲臺、水雷衞所其他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物內ニ入リタル者

第六十八　要塞地帶法

要塞地帶內ノ秘密ヲ保持シ且其防衞ヲ容易確實ナラシムル目的ヲ以テ制定セラレタル法律ヲ要塞地帶法ト稱ス其大要左ノ如シ

一、要塞地帶トハ國防ノ爲メ建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ
二、要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突

出部ヲ連絡スル線ヲ基線トシ此線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム

三、要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ告示ス

イ、第一區　基線ヨリ測リ二百五十間以內(關東州ニ在リテハ五百間)及基線ト防禦營造物ノ區域

ロ、第二區　基線ヨリ測リ七百五十間以內(關東州ニ在リテハ二千五百間)

ハ、第三區　基線ヨリ測リ二千二百五十間以內(關東州ニ在リテハ五千間)

四、何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶內水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、錄取シ又ハ要塞內地帶ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帶外ト雖モ第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以內ノ區域ニ於テ之ヲ適用ス航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ト陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

五、要塞地帶ノ第一區ニ屬スル水面ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ掘鑿ヲ爲スコトヲ得ス

六、前各條ノ外各區ニ於テ家屋其他ノ築造物ノ新築、改築　地形、地物ノ變更等ノ禁止及制限ニ關スル條項ニアリテハ之等ハ防禦營造物ニ接近スルニ從ヒ愈嚴重ナリ

第五章　恩賞及救恤

一　賞典、旌表及恩給

第六十九　爵位

爵ハ國家ニ勳功アル者ニ授ケラレ公侯伯子男ノ五級ニ分チ男子嫡長ノ順ニ依リ世襲トシ之ニ伴フ特權ヲ附隨セシメラル

第七十　位階

位階ハ正一位ヨリ從八位ニ亙ル十六階トシ左ニ揭クル者ニ叙賜セラル

1、國家ニ勳功アリ又ハ表彰スヘキ功績アル者

2、有爵者及爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人

3、在官者及在職者

第七十一　勳章ノ種類

勳章ニハ大勳位菊花章、旭日章、瑞寶章、金鵄勳章、實冠章ノ各種アリ勳ハ大勳位及勳一等ヨリ勳八等ニ亙ル八級ニ功ハ一級ヨリ七級ニ亙ル階級ニ分ツ

第七十二　金鵄勳章

金鵄勳章ハ武功拔群ナル者ニ叙賜セラルルモノニシテ終身年金ヲ加賜セラレ且年金受領者死亡シタルトキハ一年間年金ヲ遺族ニ下賜セラル尙年金受領者本人及遺族ヲ通シテ五年ニ滿タサルトキハ五年ニ滿ツル迄遺族ニ其年金ヲ賜ハルモノトス

第七十三　恩給

恩給ハ分チテ普通恩給、增加恩給、傷痍年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ノ七種トス普通恩給、增加恩給、傷痍年金及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

二　軍事救護及職業保障法

第七十四　軍事救護

入營者ヲシテ後顧ノ憂ナク軍務ニ專念精勵セシムル目的ヲ以テ軍事救護法ヲ制定セラル卽チ現役兵ノ入營、下士官及兵ノ應召　傷痍若ハ死亡又ハ傷病兵ノ死亡ノ爲生活スルコト能ハサルトキハ其家族、本人若ハ遺族ハ生活ニ必要ナル限度ニ於テ救護ヲ受クルコトヲ得ルモノトス而シテ救護ノ種類ハ生活扶助、醫療、助產及生業扶助トス救護ニ關スル事務ハ內務大臣監督ノ許ニ地方長官之ヲ管掌ス然レトモ前項ノ者ニシテ刑罰ニ觸レ又ハ怠惰或ハ素行不良ナルトキハ救護ヲ爲ササルカ或ハ其程度ヲ減少セラルルモノトス

第七十五　職業保障

入營スル者ヲシテ之カ爲失職スルコトナク安シテ兵役ニ服セシメ以テ廣ク國民ノ兵役ニ對スル義務觀念ヲ助長スル目的ヲ以テ入營者職業保障法ヲ制定セラル其大要左ノ如シ

1、何人ト雖被傭者ヲ求メ又ハ求職者ノ採否ヲ決スル場合ニ於テ入營（應召ノ場合ヲ含ム）ヲ命セラレタル者又ハ入營ヲ命セラルルコトアルヘキ者ニ對シ其故ヲ以テ不利益ナル取扱ヲ爲スヘカラス

2、雇傭者ハ入營ヲ命セラレタル被傭者ヲ解雇シタルトキ又ハ被傭者ノ入營中雇傭期間ノ滿了シタルトキハ其者カ退

營（入營ノ際行フ身體檢查ノ結果歸鄉ヲ命セラレタル場合ヲ含ム）シタル日ヨリ三月以內ニ更ニ之ヲ雇傭スルコトヲ要ス

第六章　帝國在鄉軍人會

第七十六　在鄉軍人ニ賜ハリタル勅語

朕惟フニ國防ノ完備ハ汝在鄉軍人ニ待ツモノ洵ニ多シ汝等戮力協心陸海一致シテ益〻軍人精神ヲ鍛鍊シ軍事能力ヲ增進シ鄉ニ在リテハ忠良ナル臣民トナリ軍ニ從ヒテハ國家ノ干城ト爲リ以テ其ノ本分ヲ盡サムコトヲ期セヨ（大正三年十一月三日下賜）

第七十七　創設ノ趣旨

帝國在鄉軍人會トハ在鄉軍人相互ノ協定ニ依リ成立セル我國最大ノ修養團體ナリ戰時ニ於ケル國軍ハ在鄉軍人ヲ以テ編成セラルルモノナルヲ以テ在鄉軍人ノ良否ハ直ニ國軍ノ强弱ニ影響シ延テ戰爭ノ勝敗ニ關係ヲ及ホスコト明カナリ故ニ在鄉軍人ハ國家ノ運命ヲ左右スルモノト謂フヘシ加之平時克ク國家ノ中堅トシテ國民ノ模範トナリ國家ノ發展ニ資スヘキ重責ヲ有スルコトニ鑑ミ之カ誘掖指導ハ宜ニ官憲ノ施設ニノミ俟ツコトナク自ラ進テ精神的團結ヲ作リ互ニ協力研鑽以テ其本分ヲ完ウセントスルノ趣旨ニ因リ創設セラレタルモノナリ

第七十八　目的

本會ノ目的ハ　聖旨ヲ奉體シテ軍人精神ヲ鍛鍊シ軍事能力ヲ增進スルト共ニ社會

ノ公益ヲ圖リ風紀ヲ振作シ恒ニ國家ノ干城國民ノ中堅タルノ實ヲ擧クルニ在リ

第六編　國防及列國軍事ノ趨勢

第一章　國防

第七十九　國防ノ意義

國防トハ國家ノ獨立ヲ確保シ且國家ノ使命ヲ達成スルノ謂ヒナリ、抑〻國家ハ人民、領土及統治組織ノ三要素ヲ完全ニ具備スヘキモノナルヲ以テ國防ナキ國家ハ存在スルヲ許サス要スルニ國防ノ目的ハ國家ノ向上發展ニ外ナラス換言スレハ國民文化即チ主權ノ所在ト國民道德ノ涵養トヲ以テ國防ノ主體トナスヘキモノニシテ個人ノ生命財產等ノ安固ヲ唯一ノ目標トナスニアラス國防ノ爲ニハ寧ロ之ヲ犧牲トナスコト少カラス蓋シ國民ニシテ歷史ヲ尊重セス傳統的國民精神ニ感激スルコトナクンハ國防ハ其力ヲ失フヘケレハナリ惟フニ我カ擧國皆兵ハ國民精神ノ根源トナス我國民文化ノ擁護ニ全國民ヲ精進スヘキ制度ノ表現ニ外ナラスト謂フヘシ

第八十　國防ノ要素

國防ニ最モ重ンスヘキハ實ニ人的要素ナリ然リ而シテ人的要素ノ最モ重要ナルハ國民精神ニシテ軍事知識又ハ技能ノ必要ナル固ヨリナリト雖國民精神ニ比スレハ從タラサルヘカラス敢テ遠キ歷史ヲ回顧スルマテモナク世界大戰ニ於テ戰敗セシ獨逸人ノ悲痛ナル告白ト國民ニ對スル警

告ハ國民ノ最モ重要ナル要素實ニ國民精神ニアルヲ感得セシムルニ餘ス所ナシ之ヲ要スルニ國防ノ物的要素ノ主體タル軍備ハ國民精神ヲ本トナスヘキモノニシテ自主的國民精神ニ缺クル所アレハ國防ノ據ル所亦ナシト云フモ過言ニアラス

第八十一　國土防空

一、航空機ノ偉大ナル發達ハ國防上ニ一大變革ヲ招來セリ卽チ將來戰ニ於テ空襲ハ開戰ト共ニ遠ク敵國ノ領土内ニ侵入シ政治經濟都市等ニ對シ其猛威ヲ振ヒ中樞機關竝資源ノ覆滅ヲ企圖スヘキヲ以テ銃後ノ者モ等シク戰場ニ在ル軍隊ト同シク戰禍ニ直面スルニ至レリ

二、國土防空ノ理想ハ外征軍ヲ以テ敵機ヲ其飛行航程外ニ驅逐シ又其飛行根據地ヲ覆滅スルニ在リ然レトモ航空機ノ特性上絕對ニ制空權ヲ獲得スルヲ得ス勢ヒ空襲ヲ免カルル能ハス卽チ國土直接防空ノ爲防空部隊ヲ編成シ兩者相俟チテ防空ノ完璧ヲ期スルモノトス

三、防空部隊ノ配置適當ナル場合ニ於テモ都市襲撃ヲ企圖スル敵ヲ要地外ニ於テ擊墜若ハ擊退スルハ頗ル困難ニシテ都市ノ絕對安全ヲ期スルコト難シ故ニ敵機襲來ニ依リ惹起スル災禍ヲ局限シ又ハ安寧秩序ヲ維持スル爲消防、救護、警備等ノ勤務ヲ必要トスルノミナラス敵ノ目標發見ヲ困難ナラシムル爲燈火管制、僞裝遮蔽手段ヲ講シ其他敵機襲來ノ發見及警告等ノ設備ヲ必要トス卽チ防空ハ國民全般ノ防禦作戰ニシテ官

民一致軍部ト地方トノ提携ニ依リ其目的ヲ達成シ得ルモノトス要スルニ國民ハ軍部ノ爲ス所ニ信賴ヲ捧ケ空襲ヨリ生スル災禍ニ對シ自己ノ安全ニノミニ力ヲ藉ルコトナク所謂全般ノ爲犧牲トナル奉公心ヲ發揮セサルヘカラス

第二章　軍備

第八十二　軍備ノ必要

夫レ戰爭ハ國民死活ノ岐ルル所國家ノ存亡ヲ決スルノ大事ナレハ好ンテ之ヲ行フヘキニアラサルヤ勿論ナリ、サレハ方今文明諸國ハ皆外交手段ニ依リ國際間ノ和親ヲ圖リ時々發生セントスル紛議ヲ未發ニ防キ若ハ之ヲ和平ノ裡ニ解決シ以テ其國利民福ヲ增進シ人類共同ノ理想タル恒久ノ平和ヲ實現セントシツツアリ彼ノ國際聯盟、不戰條約ノ如キモ此理想ニ基因セスンハアラス然レトモ民族及國家ノ存在スル限リ其利益ハ互ニ一致セサルノミナラス時ニ正義ニ反スル行爲ニ出ツルモノナキヲ保シ難シ而モ超國家的ノ强制力ヲ有セサルヲ思ハハ誰カ國際間ノ紛擾解決ヲ戰爭ニ訴フルコトナシト斷言シ得ルモノソ蓋シ戰爭ノ絕滅シ難キハ生物哲學ノ敎フル所ニシテ又歷史ノ明示スル所ナレハナリ

果シテ然ラハ自主獨立ノ國家ハ一朝戰爭ノ止ムヘカラサル事實ノ生起セシ場合ニモ正義ヲ持シテ自國ノ主張ヲ貫徹シ得ル力ヲ具備セサルヘカラス此力ヲ代表スルモノ卽チ軍備ナリ斯ノ如ク萬一ノ場合戰

爭ヲモ敢テ辭セサルノ覺悟ト實力トヲ備フル國家ニシテ始メテ自國ノ存立竝發展ヲ期シ得ヘク國際間ノ紛議モ亦平和的手段ニ依リ解決シ得ルコト多キモノトス而シテ獨リ戰爭ノミナラス國家ニハ其權威ヲ保チ國策ヲ遂行シ國內ノ靜謐ヲ維持スル爲常時所要ノ軍備ヲ必要トス

之ヲ要スルニ軍備ハ他面ニ於テ國際平和ヲ維持スル爲ノ施設ニシテ利害關係密接ナル邦國ノ軍備ハ常ニ相關的ニ整備セラルル所以實ニ茲ニ存ス蓋シ其何レカニ於テ均衡ヲ失スルトキ平和ノ破綻ヲ生スルモノナレハナリ

第八十三　列國ノ軍備

區分 / 國名	日本	蘇聯邦
平時兵力	約二三萬	約一三〇萬
陸軍所屬飛行機數	約一〇〇〇	約二五〇〇以上
高射砲	一聯隊ト一隊	獨立旅團約三獨立聯隊約五獨立大隊十數箇
戰車	戰車隊二隊	戰車聯隊四獨立大隊五獨立中隊若干二〇〇〇
化學兵器	研究機關ヲ設ク	化學學校二化學聯隊一獨立大隊三獨立化學小隊

區分 / 國名	中華民國	米國	英國	佛國	獨國
平時兵力	約二〇〇萬	約三二萬	約三四萬	約五六萬	約二五萬
陸軍所屬飛行機數	?	約一八〇〇	約一五〇〇	約三〇〇〇	?
高射砲	?	七聯隊高射機關銃五〇〇〇門	正規軍二大隊地方軍四八門防空旅團三	四聯隊ト三隊一六〇門	?
戰車	?	五〇〇	二二〇	約一五〇〇	?
化學兵器		瓦斯二聯隊瓦斯大隊一學校等	研究所學校	軍用化學局瓦斯防護監査部	

伊國	約三五萬	約一五〇〇	野戰高射砲隊五	約一二〇	研究所教導隊	昭和九年一月調ニヨル
備考			一四〇門			

陸軍軍人官等級

勅任官	將官	陸軍大將												
		陸軍中將							經理部將官相當官 陸軍主計總監	衛生部將官相當官 陸軍軍醫總監	陸軍藥劑總監		獸醫部將官相當官 陸軍獸醫總監	
		陸軍少將							陸軍主計監	陸軍軍醫監	陸軍藥劑監		陸軍獸醫監	
奏任官	各兵科佐官(上長官)	陸軍憲兵大佐	陸軍步兵大佐	陸軍騎兵大佐	陸軍砲兵大佐	陸軍工兵大佐	陸軍航空兵大佐	陸軍輜重兵大佐	經理部上長官 陸軍一等主計正	衛生部上長官 陸軍一等軍醫正	陸軍一等藥劑正		獸醫部上長官 陸軍一等獸醫正	
		陸軍憲兵中佐	陸軍步兵中佐	陸軍騎兵中佐	陸軍砲兵中佐	陸軍工兵中佐	陸軍航空兵中佐	陸軍輜重兵中佐	陸軍二等主計正	陸軍二等軍醫正	陸軍二等藥劑正		陸軍二等獸醫正	
		陸軍憲兵少佐	陸軍步兵少佐	陸軍騎兵少佐	陸軍砲兵少佐	陸軍工兵少佐	陸軍航空兵少佐	陸軍輜重兵少佐	陸軍三等主計正	陸軍三等軍醫正	陸軍三等藥劑正		陸軍三等獸醫正	
	各兵科尉官(士	陸軍憲兵大尉	陸軍步兵大尉	陸軍騎兵大尉	陸軍砲兵大尉	陸軍工兵大尉	陸軍航空兵大尉	陸軍輜重兵大尉	經理部士 陸軍一等主計	衛生部士 陸軍一等軍醫	陸軍一等藥劑官	陸軍一等看護官	獸醫部士 陸軍一等獸醫	軍樂部士 陸軍一等樂長
		陸軍憲兵中尉	陸軍步兵中尉	陸軍騎兵中尉	陸軍砲兵中尉	陸軍工兵中尉	陸軍航空兵中尉	陸軍輜重兵中尉	陸軍二等主計	陸軍二等軍醫	陸軍二等藥劑官	陸軍二等看護官	陸軍二等獸醫	陸軍二等樂長
		陸軍憲	陸軍步	陸軍騎	陸軍砲	陸軍工	陸軍航空	陸軍輜重	陸軍三	陸軍三	陸軍三	陸軍三	陸軍三	陸軍三

備考　元帥府ニ列セラレタル陸軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ

等級表（陸軍武官官等表 陸軍兵等級表）

官	例	任	官	各兵科	各兵科准士官	各兵科下士官	各兵科兵
各兵科尉官（士官）	各兵科准士官	各兵科下士官					
軍需兵大尉	陸軍需兵中尉	陸軍需兵少尉	陸軍需兵特務曹長	陸軍需兵曹長	陸軍需兵軍曹	陸軍需兵伍長	陸軍需兵上等兵
軍騎兵大尉	陸軍騎兵中尉	陸軍騎兵少尉	陸軍騎兵特務曹長	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵軍曹	陸軍騎兵伍長	陸軍騎兵上等兵
軍步兵大尉	陸軍步兵中尉	陸軍步兵少尉	陸軍步兵特務曹長	陸軍步兵曹長	陸軍步兵軍曹	陸軍步兵伍長	陸軍步兵上等兵
軍砲兵大尉	陸軍砲兵中尉	陸軍砲兵少尉	陸軍砲兵特務曹長	陸軍砲兵曹長 陸軍砲兵一等被工長 陸軍砲兵一等銃工長 陸軍砲兵一等火工長 陸軍砲兵一等鍛工長	陸軍砲兵軍曹 陸軍砲兵二等被工長 陸軍砲兵二等銃工長 陸軍砲兵二等火工長 陸軍砲兵二等鍛工長	陸軍砲兵伍長 陸軍砲兵三等被工長 陸軍砲兵三等銃工長 陸軍砲兵三等火工長 陸軍砲兵三等鍛工長	陸軍砲兵上等兵
軍工兵大尉	陸軍工兵中尉	陸軍工兵少尉	陸軍工兵特務曹長 陸軍工兵上等工長	陸軍工兵曹長 陸軍工兵一等木工長 陸軍工兵一等機工長 陸軍工兵一等電工長	陸軍工兵軍曹 陸軍工兵二等木工長 陸軍工兵二等機工長 陸軍工兵二等電工長	陸軍工兵伍長 陸軍工兵三等木工長 陸軍工兵三等機工長 陸軍工兵三等電工長	陸軍工兵上等兵
軍航空兵大尉	陸軍航空兵中尉	陸軍航空兵少尉	陸軍航空兵特務曹長	陸軍航空兵曹長	陸軍航空兵軍曹	陸軍航空兵伍長	陸軍航空兵上等兵
軍輜重兵大尉	陸軍輜重兵中尉	陸軍輜重兵少尉	陸軍輜重兵特務曹長	陸軍輜重兵曹長	陸軍輜重兵軍曹	陸軍輜重兵伍長	陸軍輜重兵上等兵
經理部士官	經理部准士官	經理部下士官					
軍一等主計	陸軍二等主計	陸軍三等主計	陸軍上等計手 陸軍上等縫工長 陸軍上等被工長	陸軍一等計手 陸軍一等縫工長 陸軍一等被工長	陸軍二等計手 陸軍二等縫工長 陸軍二等被工長	陸軍三等計手 陸軍三等縫工長 陸軍三等被工長	
衛生部士官	衛生部准士官	衛生部下士官					
軍一等軍醫 軍一等藥劑官 軍一等看護官	陸軍二等軍醫 陸軍二等藥劑官 陸軍二等看護官	陸軍三等軍醫 陸軍三等藥劑官 陸軍三等看護官	陸軍上等看護長 陸軍上等廚工長	陸軍一等看護長 陸軍一等廚工長	陸軍二等看護長 陸軍二等廚工長	陸軍三等看護長 陸軍三等廚工長	陸軍上等看護兵 陸軍上等廚工兵
獸醫部士官		獸醫部下士官					
軍一等獸醫	陸軍二等獸醫	陸軍三等獸醫	陸軍上等蹄鐵工長	陸軍一等蹄鐵工長	陸軍二等蹄鐵工長	陸軍三等蹄鐵工長	
軍樂部士官	軍樂部准士官	軍樂部下士官					
軍一等樂長	陸軍二等樂長	陸軍三等樂長	陸軍樂長	陸軍一等樂手	陸軍二等樂手	陸軍三等樂手	軍樂部兵 樂手補

備考	昭和九年一月調ニヨル	一四〇門	教導隊

附表第二

海軍軍人

士	将官	佐	将校 兵科	将校 機關科	将校相當官 兵科	将校相當官 軍醫科	将校相當官 主計科	将校相當官 造船科	将校相當官 造機科	将校相當官 造兵科	将校相當官 水路科	特務士官 兵科	特務士官 航空科	特務士官 機關科	特務士官 軍樂科	特務士官 看護科	特務士官 主計科	准士官	下士官	兵	機關科	兵科	機關科	備考
	海軍大將																						元帥府ニ列セラルル海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ贈ラ
	海軍中將					海軍軍醫中將	海軍主計中將	海軍造船中將	海軍造機中將	海軍造兵中將													
	海軍少將					海軍軍醫少將	海軍主計少將	海軍造船少將	海軍造機少將	海軍造兵少將													
海軍大佐			海軍大佐	海軍機關大佐		海軍軍醫大佐	海軍主計大佐	海軍造船大佐	海軍造機大佐	海軍造兵大佐	海軍水路大佐										海軍大佐	海軍機關大佐	
海軍中佐			海軍中佐	海軍機關中佐		海軍軍醫中佐	海軍主計中佐	海軍造船中佐	海軍造機中佐	海軍造兵中佐	海軍水路中佐										海軍中佐	海軍機關中佐	

軍人階級表
（海軍武官官階表
海軍兵職階表）

士官

		機關	軍醫	藥劑	主計	造船	造機	造兵	水路
將官	海軍大將								
	海軍中將		海軍軍醫中將		海軍主計中將	海軍造船中將	海軍造機中將	海軍造兵中將	
	海軍少將		海軍軍醫少將	海軍藥劑少將	海軍主計少將	海軍造船少將	海軍造機少將	海軍造兵少將	
佐官	海軍大佐	海軍機關大佐	海軍軍醫大佐	海軍藥劑大佐	海軍主計大佐	海軍造船大佐	海軍造機大佐	海軍造兵大佐	海軍水路大佐
	海軍中佐	海軍機關中佐	海軍軍醫中佐	海軍藥劑中佐	海軍主計中佐	海軍造船中佐	海軍造機中佐	海軍造兵中佐	海軍水路中佐
	海軍少佐	海軍機關少佐	海軍軍醫少佐	海軍藥劑少佐	海軍主計少佐	海軍造船少佐	海軍造機少佐	海軍造兵少佐	海軍水路少佐
尉官	海軍大尉	海軍機關大尉	海軍軍醫大尉	海軍藥劑大尉	海軍主計大尉	海軍造船大尉	海軍造機大尉	海軍造兵大尉	海軍水路大尉
	海軍中尉	海軍機關中尉	海軍軍醫中尉	海軍藥劑中尉	海軍主計中尉	海軍造船中尉	海軍造機中尉	海軍造兵中尉	海軍水路中尉
	海軍少尉	海軍機關少尉	海軍軍醫少尉	海軍藥劑少尉	海軍主計少尉	海軍造船少尉	海軍造機少尉	海軍造兵少尉	海軍水路少尉

特務士官・准士官・下士官・兵

特務士官		海軍特務大尉	海軍航空特務大尉	海軍機關特務大尉	海軍軍樂特務大尉	海軍看護特務大尉	海軍主計特務大尉
		海軍特務中尉	海軍航空特務中尉	海軍機關特務中尉	海軍軍樂特務中尉	海軍看護特務中尉	海軍主計特務中尉
		海軍特務少尉	海軍航空特務少尉	海軍機關特務少尉	海軍軍樂特務少尉	海軍看護特務少尉	海軍主計特務少尉
准士官		海軍兵曹長	海軍航空兵曹長	海軍機關兵曹長	海軍軍樂兵曹長	海軍看護兵曹長	海軍主計兵曹長
下士官	一等下士官	海軍一等兵曹	海軍一等航空兵曹	海軍一等機關兵曹	海軍一等軍樂兵曹	海軍一等看護兵曹	海軍一等主計兵曹
	二等下士官	海軍二等兵曹	海軍二等航空兵曹	海軍二等機關兵曹	海軍二等軍樂兵曹	海軍二等看護兵曹	海軍二等主計兵曹
	三等下士官	海軍三等兵曹	海軍三等航空兵曹	海軍三等機關兵曹	海軍三等軍樂兵曹	海軍三等看護兵曹	海軍三等主計兵曹
兵	一等兵	海軍一等水兵	海軍一等航空兵	海軍一等機關兵	海軍一等軍樂兵	海軍一等看護兵	海軍一等主計兵
	二等兵	海軍二等水兵	海軍二等航空兵	海軍二等機關兵	海軍二等軍樂兵	海軍二等看護兵	海軍二等主計兵
	三等兵	海軍三等水兵	海軍三等航空兵	海軍三等機關兵	海軍三等軍樂兵	海軍三等看護兵	海軍三等主計兵
	四等兵	海軍四等水兵	海軍四等航空兵	海軍四等機關兵	海軍四等軍樂兵	海軍四等看護兵	海軍四等主計兵

豫備

豫備士官	豫備佐官	海軍豫備大佐	海軍豫備機關大佐
		海軍豫備中佐	海軍豫備機關中佐
		海軍豫備少佐	海軍豫備機關少佐
	豫備尉官	海軍豫備大尉	海軍豫備機關大尉
		海軍豫備中尉	海軍豫備機關中尉
		海軍豫備少尉	海軍豫備機關少尉
豫備特務士官		海軍豫備特務少尉	海軍豫備機關特務少尉
豫備准士官		海軍豫備兵曹長	海軍豫備機關兵曹長
豫備下士官	一等豫備下士官	海軍豫備一等兵曹	海軍豫備一等機關兵曹
	二等豫備下士官	海軍豫備二等兵曹	海軍豫備二等機關兵曹
	三等豫備下士官	海軍豫備三等兵曹	海軍豫備三等機關兵曹

備考

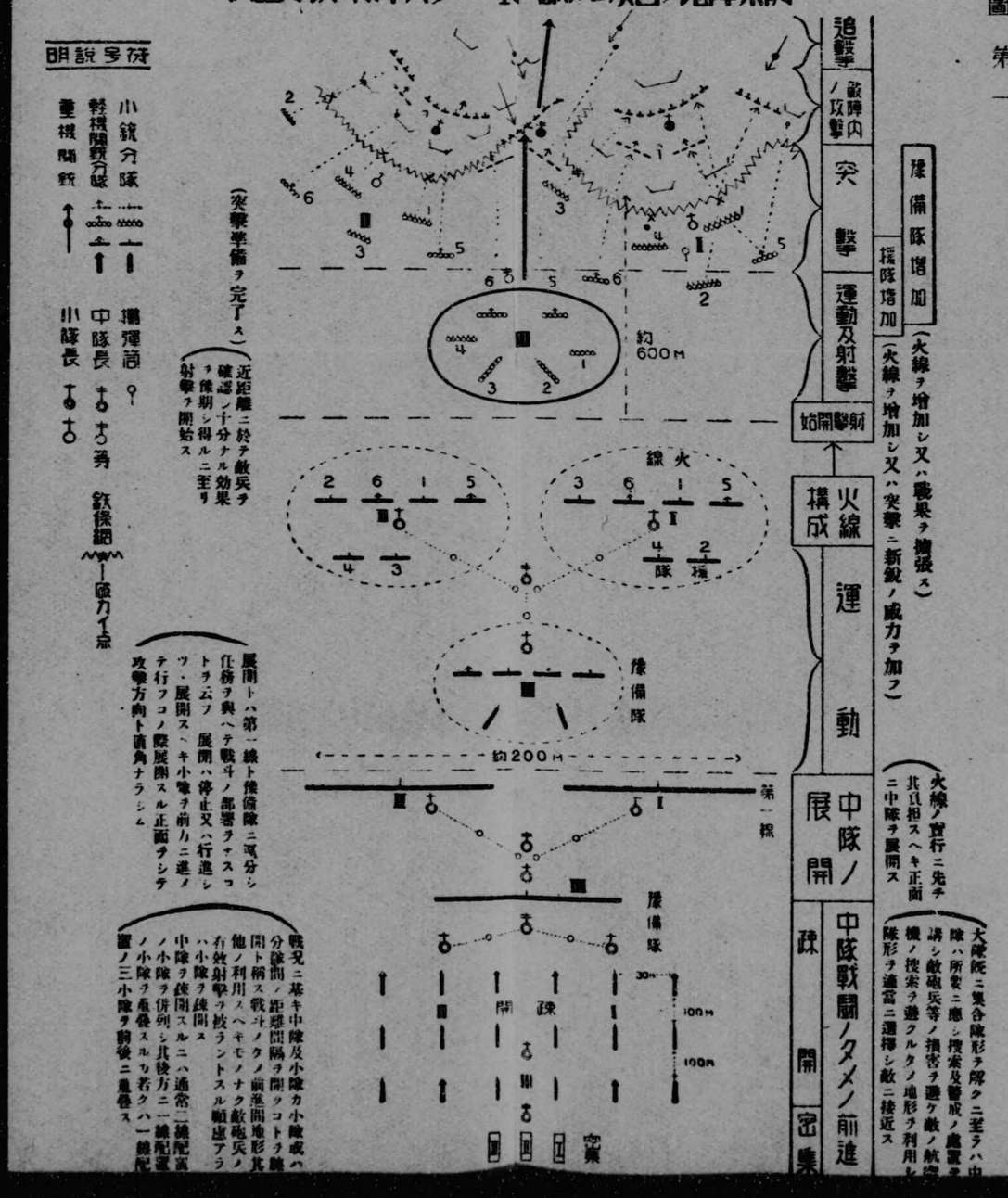
將校中機關科ニ屬スルモノハ海軍機關大佐以下ニ限ル

ノルル海軍大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ賜フ

（表省略）

附圖第一

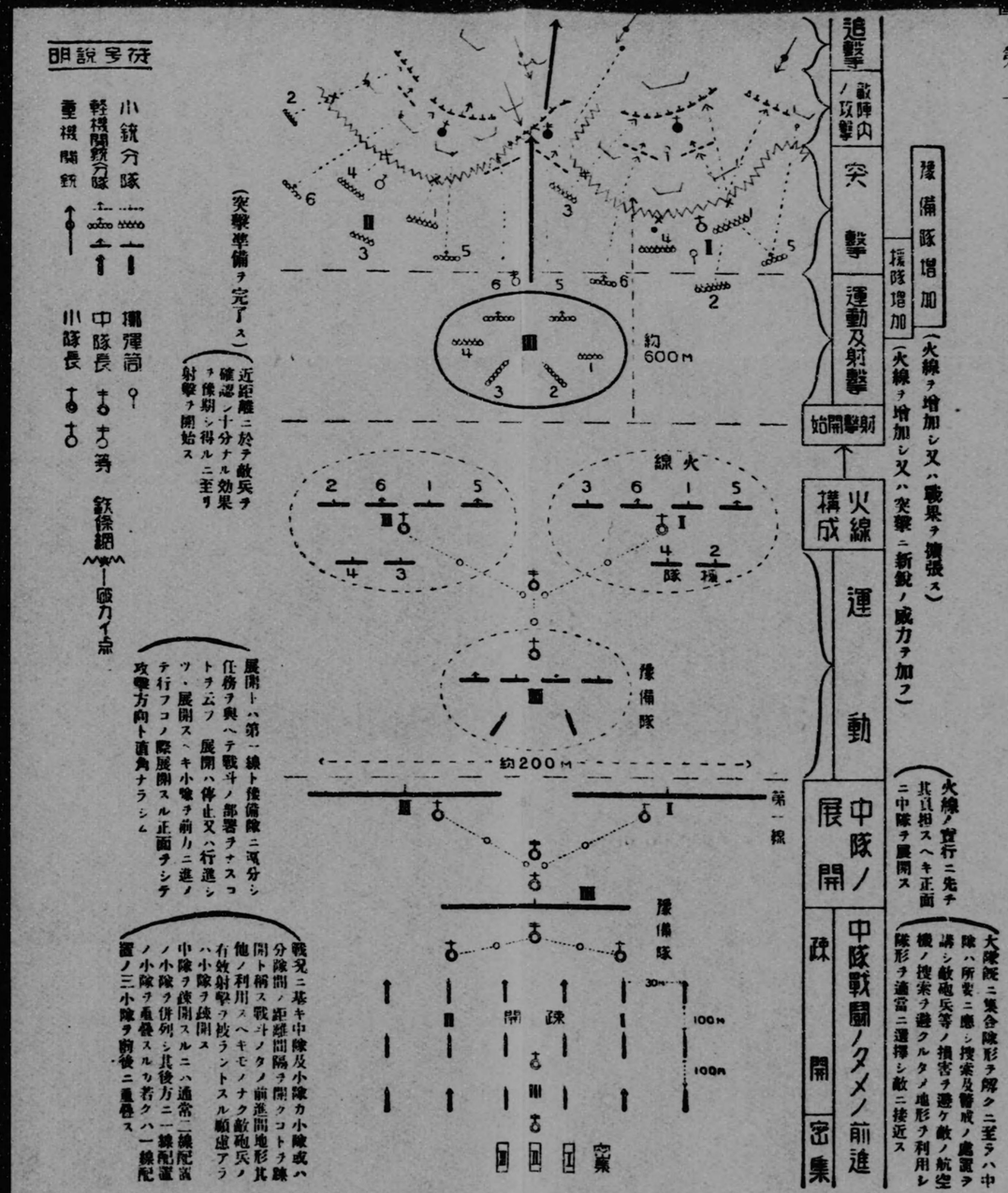
例圖擊攻ノ隊中兵歩ルス對ニ敵ルヲ領占ヲ地陣禦防



符号說明

小銃分隊
軽機関銃(分隊)
重機関銃
擲彈筒
中隊長
小隊長
鉄條網
堡力イ点

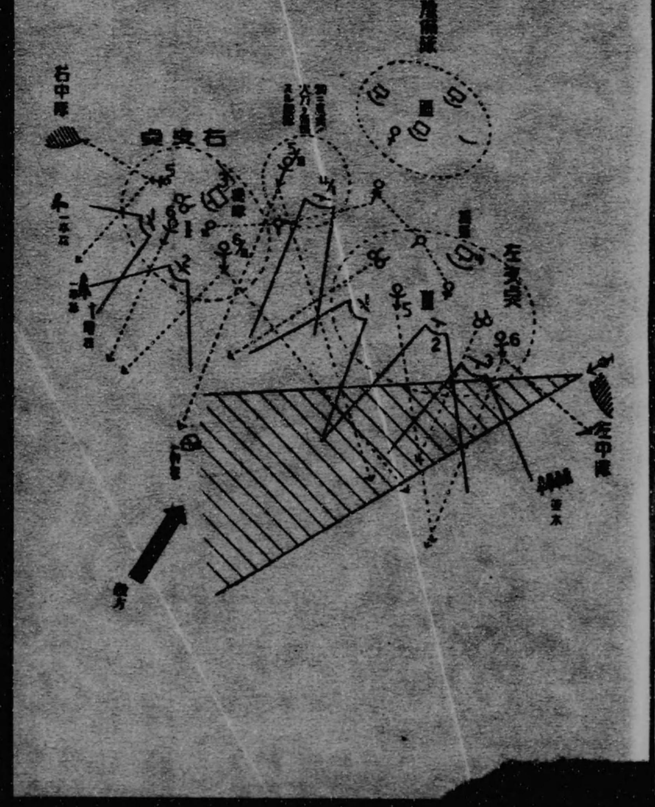
第一


追撃
敵陣内ノ攻撃
突撃
運動及射撃
射撃開始
火線構成
運動
中隊ノ展開
中隊戦闘ノ一メノ前進
疎開
密集
豫備隊増加
（火線ヲ増加シ又ハ戦果ヲ擴張ス）
指揮隊増加
（火線ヲ増加シ又ハ突撃ニ新鋭ノ威力ヲ加フ）
火線ノ實行ニ先チ其ノ正面ニ中隊ヲ展開ス
大隊既ニ集合隊形ヲ解クニ至ラハ中隊ハ所要ニ應シ捜索及警戒ノ處置ヲ講シ敵砲兵等ノ損害ヲ避ケ敵ノ航空機ノ捜索ヲ避クルタメ地形ヲ利用シ隊形ヲ適當ニ選擇シ敵ニ接近ス
約600M
約200M
第一線
豫備隊
火線
（突撃準備ヲ完了ス）
近距離ニ於テ敵兵ヲ確認シ十分ナル効果ヲ豫期シ得ルニ至リ射撃ヲ開始ス
展開ハ第一線ト後備隊ニ區分シ任務ヲ與ヘテ戦斗ノ部署ヲナスコトヲ云フ
展開ハ停止又ハ行進シツヽ展開スヘキ小隊ヲ前方ニ進メ展開スル正面ヲシテ行フコノ際展開スル正面ハ敵ノ攻撃方向ト直角ナラシム
戦況ニ基キ中隊及小隊カ小隊或ハ分隊間ノ距離間隔ヲ開クコトヲ疎開ト稱ス戦斗ノタメ前進間地形其他ノ利用スヘキモノナク敵砲兵ノ有效射撃ヲ被ラントスル顧慮アラハ小隊ヲ疎開ス
中隊ヲ疎開スルニハ通常二線配置ノ小隊ヲ併列シ其後方ニ一線配置ノ小隊ヲ重疊スルカ若クハ一線配置ノ三小隊ヲ前後ニ重疊ス
小銃分隊
軽機關銃分隊
重機關銃
擲彈筒
中隊長
小隊長
鉄條網
破壊イ点

符号説明

第二圖

步兵中隊防禦圖例



昭和十年七月廿五日印刷
昭和十年七月三十日發行

青年學校教練教程
定價金四拾錢

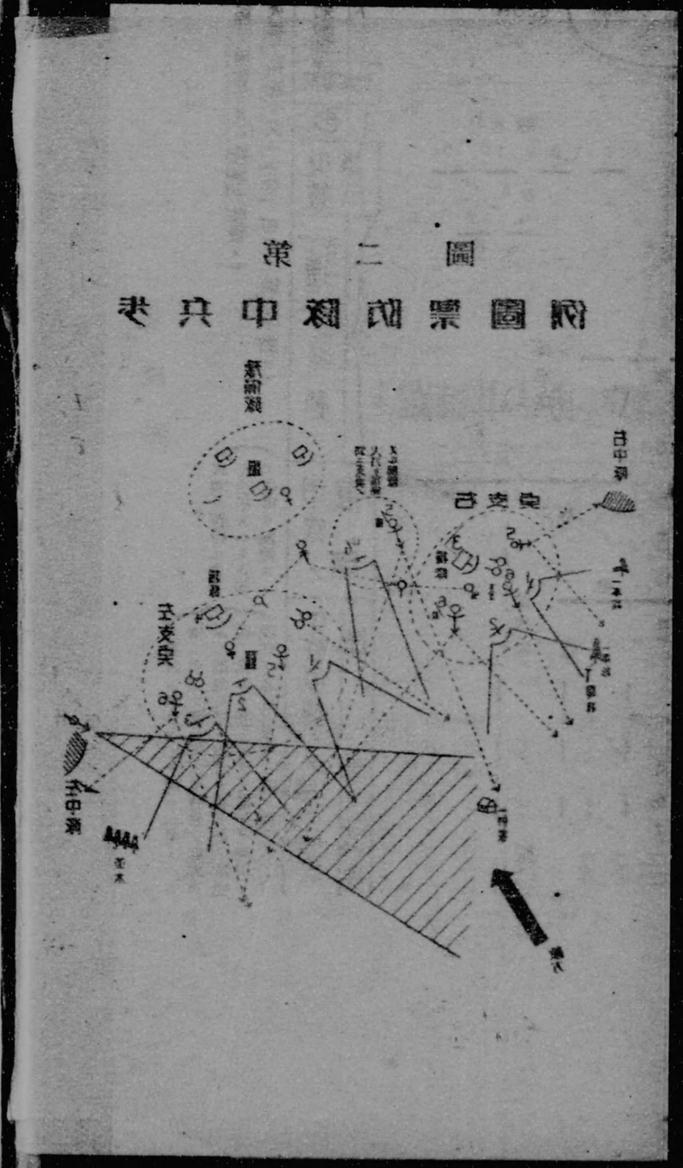
著作權所有
不許複製

編輯者　武揚社編輯部

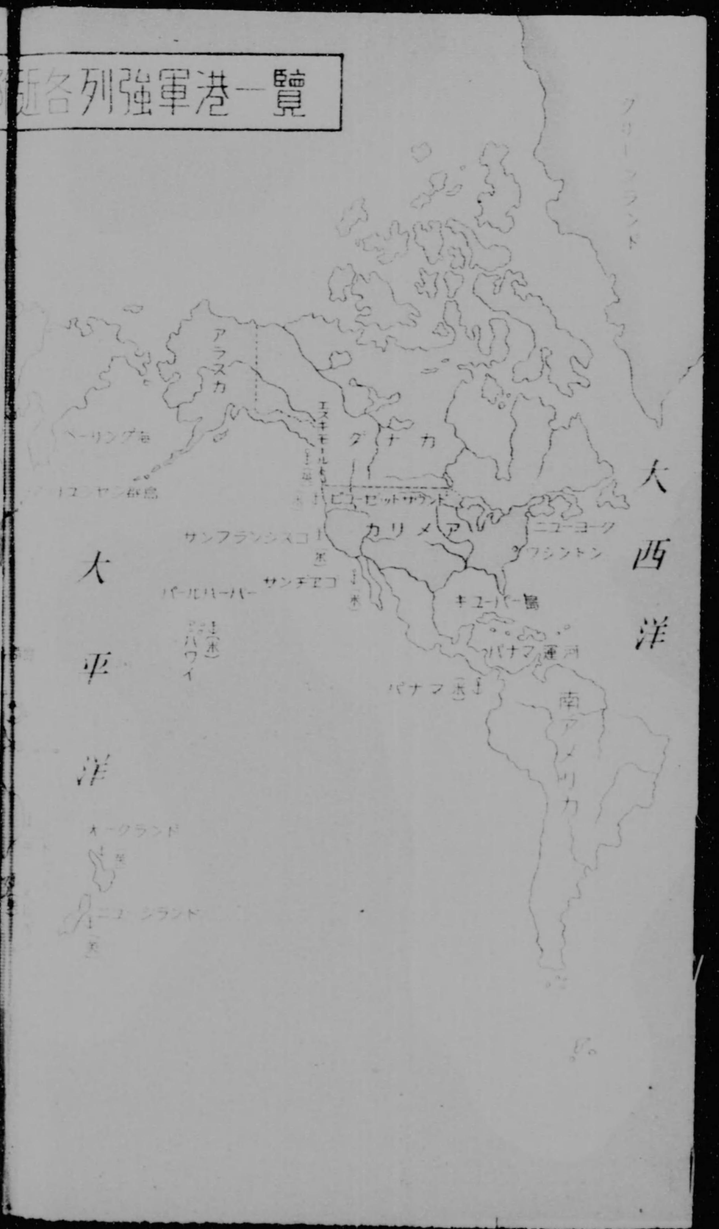
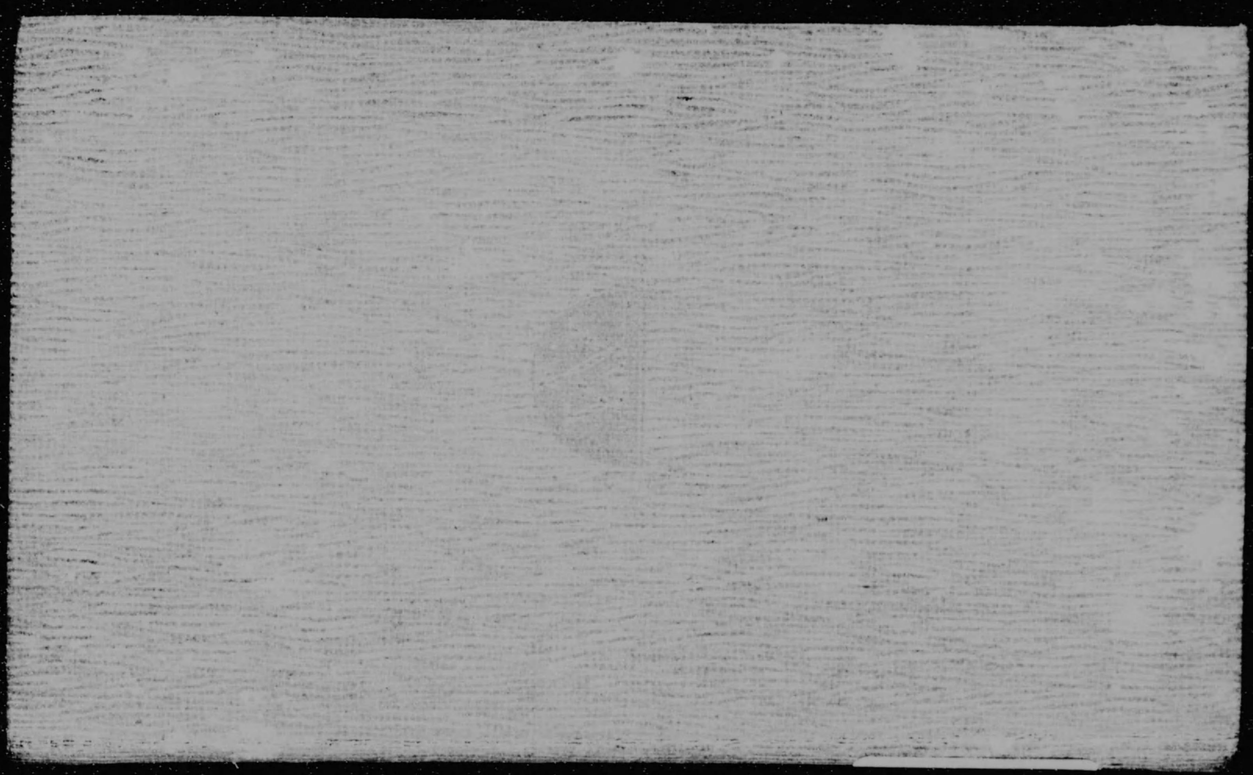
發行兼印刷者　京都市伏見區深草極樂町七五八番地　和田忠次郎

發行所　京都市伏見區深草極樂町　合名會社　武揚社書店
電話(伏)二八三番
振替大阪二七九二番

第二圖



世界地圖及大平洋附近各列強軍港一覽

年	組
所	有

世界地圖及大平洋附近各列強軍港一覽